



平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年1月30日

上場会社名 株式会社ブルボン

上場取引所 東

コード番号 2208 URL <http://www.bourbon.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 吉田 康

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 財務管理部長

(氏名) 山崎 幸治

TEL 0257-23-2333

四半期報告書提出予定日 平成24年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	75,548	0.9	1,371	△26.5	1,419	△16.5	360	△0.3
23年3月期第3四半期	74,909	0.1	1,864	△28.1	1,700	△33.1	361	△63.8

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 293百万円 (50.4%) 23年3月期第3四半期 195百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	15.05	—
23年3月期第3四半期	15.00	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期第3四半期	63,391	32,788	51.7	1,366.67
23年3月期	62,383	32,698	52.4	1,368.50

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 32,788百万円 23年3月期 32,698百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	6.50	—	6.50	13.00
24年3月期	—	6.50	—		
24年3月期(予想)				6.50	13.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	103,100	0.7	1,960	△35.5	2,160	△26.0	600	△42.3	25.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ― 社 （社名） 、 除外 ― 社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 無
- ② ①以外の会計方針の変更 ： 無
- ③ 会計上の見積りの変更 ： 無
- ④ 修正再表示 ： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	24年3月期3Q	27,700,000 株	23年3月期	27,700,000 株
② 期末自己株式数	24年3月期3Q	3,708,219 株	23年3月期	3,806,139 株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	24年3月期3Q	23,962,887 株	23年3月期3Q	24,120,484 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続を実施中であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成23年5月6日に公表いたしました通期連結業績予想を本資料において修正しております。
2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○ 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（その他）に関する事項	3
追加情報	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災による生産活動の停滞から徐々に復興の動きが見られたものの、米国経済の回復の遅れや欧州での信用不安の連鎖による円高の進行や新興国の成長鈍化などにより世界的に景気減速懸念が拡がり先行き不透明な状況で推移いたしました。

菓子・飲料・食品業界は、震災による自粛ムードは和らいだものの、依然として続く緩やかなデフレ基調に加え、厳しい雇用情勢や所得の伸び悩みなどから生活防衛意識は引き続き高く、個人消費は低迷した状況が続きました。また、放射性物質への消費者の不安心理は高まり、食の安全・安心への取り組みがより一層求められました。

そのような中、当社グループでは、食品製造企業として安全・安心・安定および健康を基とした品質保証第一主義に徹し、実質価値の高い商品と消費者ニーズにお応えしたサービスの提供など、顧客満足度の向上に向けた活動を推進してまいりました。

また、電力不足による節電対応や食品の放射性物質の自主検査体制構築など、安全性対策の充実と品質の確保に万全を尽すとともに、社会の変化や消費者ニーズに機敏かつ柔軟に対応し、季節の出来事に合わせたきめ細かい店頭企画の実施や需要を喚起する積極的な企画提案型の営業活動、継続した新製品開発などに努めてまいりました。

その結果、震災後の備蓄需要の高まりから保存食品に支持をいただいたビスケット品目が堅調に推移するとともに、キャンデー品目が大きく伸張したものの、販売競争が激化するなか新製品の発売やリニューアルが遅れたことなどにより売上高は前年同期並みとなりました。

利益面では、生産効率の向上やコストの低減活動などに努めたものの、売上高が計画を下回ったことと、製造原価率の上昇および法人税法等の改正に伴い繰延税金資産の取り崩しを行う必要性が生じたことなどから営業利益、経常利益、四半期純利益ともに前年同期を下回りました。

営業品目別の概況

菓子の合計売上高は70,871百万円（対前年同期比101.0%）となりました。

- ビスケット品目は、新製品のミニチョココンビシリーズ、リニューアルしたパッケージ半生商品群、ロングセラー商品の袋ビスケット商品群などに好評をいただきました。また、“ブチクマ”キャラクターをデザインしたプチシリーズ、個食・パーソナル需要に対応した袋半生商品、ちょっと贅沢なスイートセレクションシリーズも順調に推移し前年同期を若干上回りました。
- 豆菓子品目は、季節ごとの味の展開を図った新製品や受験生応援商品、折々の企画商品などに取り組んだものの、既存品が伸び悩み前年同期を下回りました。
- キャンデー品目は、イタリアンパスタ・フェットチーネ（平打ちパスタ）のような形状で、少し硬めのアルデンテな噛みごちのフェットチーネグミシリーズにおいて季節に合わせたフルーツの味の展開を行い、大変好評をいただきました。また、ユニークなキャラクターの“つぶやき”を表現した、コミュニケーションキャンデーも伸張し全体でも前年同期を大きく上回りました。
- デザート品目は、商品の実質価値の評価とテレビコマーシャルにより、くだものいっぱいゼリーシリーズ、ソースINデザートシリーズ、進物商品群などに支持をいただきました。一部商品の発売タイミングが遅れたことなどにより前年同期には及びませんでした。
- 米菓品目は、引き続き国産米を100%使用した袋米菓商品が好評をいただきました。“ブチクマ”キャラクターをデザインした米菓ファミリーサイズ商品、季節の味の展開を行ったチーズおかきシリーズも支持をいただいたものの、加工米菓商品群の伸び悩みなどにより前年同期を下回りました。
- スナック品目は、キャラクターを使用した商品の展開を図るとともに、販売ルート限定商品のリニューアルなどに取り組んだものの、既存品の伸び悩みにより前年同期を下回りました。
- チョコレート品目は、アルフォートミニチョコレートシリーズ、ブランチュールミニチョコレートシリーズ、アーモンドラッシュなどのリニューアルを行うとともに、クレープ生地と小麦パフを用いたクランチタイプのチョコレートを発売し、小箱チョコレートの品揃えの充実を図りました。ファミリーサイズ商品群、バッグサイズ商品群などが堅調に推移したものの、袋チョコレート商品群、ビットシリーズなどが伸び悩み、前年同期には若干及びませんでした。
- チューインガム品目は、クールとホットな刺激で眠気スッキリの機能性ガムの発売や強烈にすっぱいパウダーとジューシーな味わいが楽しめる、スッパチョッパシリーズの展開を図りました。販売ルート限定商品のリニューアルにも取り組んだものの、既存品の低迷により前年同期を大きく下回りました。

飲料・食品・その他の合計売上高は4,676百万円（対前年同期比98.6%）となりました。

- 飲料品目は、東日本大震災の影響によりミネラルウォーターへの需要が一時的に高まりました。牛乳でおいしくつめたいココアシリーズ、牛乳でおいしくホットなココアシリーズは品質が評価され、自動販売機等での取り扱いが増えました。競争激化の状況下であったものの前年同期並みとなりました。
- 食品品目は、和風の健康素材を用いたしょうがココアが好評をいただきました。また、機能性食品は、バランス栄養食品スローバーシリーズに新味を加え、品揃えの充実を図るとともに、販売ルートの拡大に取り組みました。既存品が伸び悩んだことなどにより全体では前年同期に及びませんでした。
- その他品目では、通信販売事業は、催事企画商品やダイレクトメールによる商品案内の実施、定期購入サービスなどにより新規顧客の拡大に取り組みました。自動販売機事業は、多様な商品を総合的に取り扱うプチモールの展開エリア拡大、設置台数の増加に伴い伸張しました。また、酒類販売事業は、新製品を発売し拡販に努めました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は75,548百万円（対前年同期比100.9%）、営業利益は1,371百万円（対前年同期比73.5%）、経常利益は1,419百万円（対前年同期比83.5%）、四半期純利益は360百万円（対前年同期比99.7%）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は63,391百万円となり、前連結会計年度末比1,007百万円の増加となりました。これは主に、季節的な商品構成に対応したチョコレート品目、ビスケット品目のたな卸資産の増加があったことと、季節変動による受取手形及び売掛金の増加があったことによるものです。

負債合計は30,602百万円となり、前連結会計年度末比917百万円の増加となりました。これは主に、季節変動による支払手形及び買掛金の増加があったことと、法人税等の支払および賞与の支給等があったことによるものです。

純資産は32,788百万円となり、前連結会計年度末比90百万円の増加となりました。これは主に、四半期純利益および自己株式の処分による増加があったことと、剰余金の配当を行ったことによる減少があったことによるものです。

(連結キャッシュ・フローの状況に関する定性的情報)

当第3四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは3,279百万円の収入（前年同期1,426百万円の収入、対前年同期比229.9%）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益1,360百万円および減価償却費2,861百万円があったことと、法人税等の支払額1,371百万円の支出があったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは2,563百万円の支出（前年同期2,952百万円の支出、対前年同期比86.8%）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出2,722百万円があったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは816百万円の支出（前年同期890百万円の支出、対前年同期比91.7%）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出370百万円および配当金の支払額305百万円があったことによるものです。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、前第3四半期連結会計期間末に比べ435百万円増加し、6,860百万円となりました。また、前連結会計年度末に比べ116百万円の減少となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年5月6日に公表いたしました通期連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日発表の「平成24年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

追加情報

法人税率の変更等による影響

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」（平成23年法律第114号）及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.4%から、平成24年4月1日に開始する連結会計年度から平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については37.8%に、平成27年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については35.4%となります。この税率変更により、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）は267百万円減少し、法人税等調整額は236百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,965	6,848
受取手形及び売掛金	13,139	13,793
有価証券	111	98
商品及び製品	3,051	3,948
仕掛品	493	476
原材料及び貯蔵品	2,536	2,881
その他	2,260	1,444
貸倒引当金	△112	△122
流動資産合計	28,445	29,369
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,515	8,296
機械装置及び運搬具（純額）	8,749	9,313
その他（純額）	8,214	7,875
有形固定資産合計	25,479	25,485
無形固定資産		
のれん	2,120	2,034
その他	493	546
無形固定資産合計	2,614	2,581
投資その他の資産		
その他	5,850	5,962
貸倒引当金	△6	△6
投資その他の資産合計	5,843	5,955
固定資産合計	33,938	34,022
資産合計	62,383	63,391

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,221	10,924
短期借入金	2,315	2,142
未払法人税等	936	123
賞与引当金	954	327
返品引当金	74	82
その他	7,374	8,491
流動負債合計	20,876	22,092
固定負債		
長期借入金	1,450	1,222
退職給付引当金	5,586	5,662
役員退職慰労引当金	162	164
資産除去債務	7	7
負ののれん	31	30
その他	1,571	1,422
固定負債合計	8,808	8,509
負債合計	29,685	30,602
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	7,232	7,326
利益剰余金	25,540	25,590
自己株式	△586	△573
株主資本合計	33,223	33,380
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△343	△406
為替換算調整勘定	△181	△184
その他の包括利益累計額合計	△524	△591
純資産合計	32,698	32,788
負債純資産合計	62,383	63,391

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
売上高	74,909	75,548
売上原価	43,892	45,069
売上総利益	31,016	30,478
販売費及び一般管理費	29,152	29,107
営業利益	1,864	1,371
営業外収益		
受取利息	14	15
受取配当金	54	64
負ののれん償却額	1	1
償却債権取立益	—	55
その他	66	68
営業外収益合計	137	205
営業外費用		
支払利息	36	53
減価償却費	43	24
為替差損	210	70
その他	10	7
営業外費用合計	300	156
経常利益	1,700	1,419
特別利益		
固定資産売却益	—	3
投資有価証券売却益	15	13
貸倒引当金戻入額	113	—
その他	0	—
特別利益合計	129	17
特別損失		
固定資産処分損	36	45
減損損失	7	12
災害による損失	—	2
災害支援支出	—	7
退職給付制度改定損	521	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	21	—
その他	90	7
特別損失合計	677	76
税金等調整前四半期純利益	1,153	1,360
法人税、住民税及び事業税	758	581
法人税等調整額	32	418
法人税等合計	791	999
少数株主損益調整前四半期純利益	361	360
四半期純利益	361	360

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	361	360
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	△127	△63
為替換算調整勘定	△39	△3
その他の包括利益合計	△166	△67
四半期包括利益	195	293
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	195	293
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,153	1,360
減価償却費	2,621	2,861
のれん償却額	109	85
受取利息及び受取配当金	△69	△80
負ののれん償却額	△1	△1
支払利息	36	53
為替差損益 (△は益)	229	111
固定資産処分損益 (△は益)	36	42
減損損失	7	12
投資有価証券売却損益 (△は益)	△15	△13
災害による損失	—	2
災害支援支出	—	7
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	21	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,649	△659
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△768	△1,227
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,502	1,707
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△598	△626
その他	621	1,001
小計	3,235	4,638
利息及び配当金の受取額	69	76
利息の支払額	△35	△53
災害損失の支払額	—	△10
法人税等の支払額	△1,842	△1,371
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,426	3,279
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,914	△2,722
有形固定資産の売却による収入	12	495
投資有価証券の取得による支出	△131	△306
投資有価証券の売却による収入	53	60
その他	27	△91
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,952	△2,563
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△25	△30
長期借入金の返済による支出	△407	△370
配当金の支払額	△316	△305
その他	△141	△110
財務活動によるキャッシュ・フロー	△890	△816
現金及び現金同等物に係る換算差額	△16	△15
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,433	△116
現金及び現金同等物の期首残高	8,858	6,976
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,425	6,860

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。